

平成23年度沖縄群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

9月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	40	20
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	20	20	40

(平成23年8月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	27.6	30.4	25.5	260.5	188.9

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

9月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

植付期におけるイネヨトウの防除対策

- 現在沖縄群島にイネヨトウが多発生しており、植付後の被害が懸念される。
- 植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し、植溝施用する。
- 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意する。
- 平成23年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成23年9月1日付)参照。

2 かんきつ(たんかん、シークワサー)

かいよう病の防除対策

- 罹病した夏秋枝は翌年の伝染源となるので除去する。
- 台風情報に留意し、台風の影響を受ける前に薬剤防除を行うと効果的である。

サビダニ類(ミカンサビダニ、リュウキュウミカンサビダニ)の防除対策

- 例年8月より発生が多くなることから、早期発見に努め発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

3 マンゴー

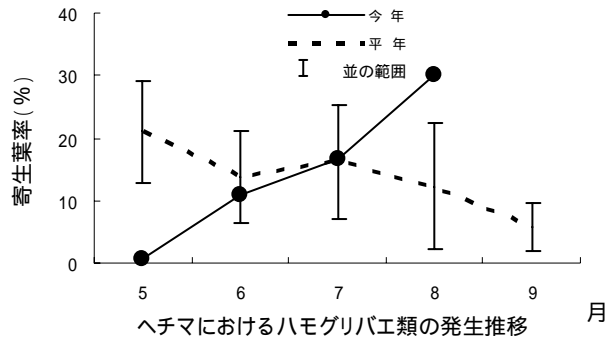
チャノキイロアザミウマの防除対策

- 8月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.1頭(前年0.4頭、平年2.2頭)とやや少なかった。また一部の施設で本種が多発生していた。
- 灌水を行う際、噴霧機などで本種を洗い流すように散水し、密度低減を図る。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

4 へちま

- (1) ハモグリバエ類
発生程度 : やや多
予報の根拠

- a 8月下旬の調査の結果、寄生葉率は30.2% (前年0%、平年12.2%)と平年よりやや高かった。
b 気象予報によると向こう1か月の気温は平年並または高い確率が40%、降水量は平年並または多い確率が40%と予想されており、発生はやや多のまま推移すると考えられる。



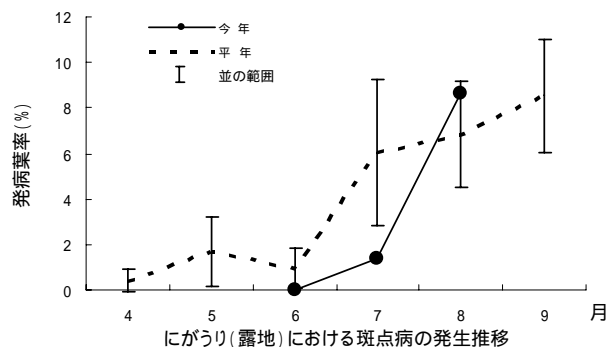
< 防除上注意すべき事項 >

- a 多発してからは防除が困難になるため、早期発見・早期防除に努める。
b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。

5 にながうり(露地)

- (1) 斑点病
発生程度 : 並
予報の根拠

- a 8月下旬の調査の結果、発病葉率は8.6% (前年14.7%、平年6.8%)と平年並であった。
b 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年並または高い確率が40%と予想されており、本病の発生が助長されやすいと考えられる。



< 防除上注意すべき事項 >

- a 老葉や病葉は発生源になるので除去し、圃場外に持ち出し処分する。
b 多湿にならないよう、圃場の排水をよくする。
c 葉をよく観察し、初期防除を徹底する。

ホコリダニ類の防除対策

- a 8月下旬の調査の結果、寄生株率は26.0%であった。また一部圃場で寄生株が多く見られた。
b 生長点付近に寄生することが多く、生長が停止し、芯止まり症状を生じる。
c 加害された葉は奇形になる他、葉縁が裏側に巻き込み、葉裏が光沢を帯びることから、生長点付近や新葉をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。